資料－３

ゲート機側操作盤診断装置

本技術は、従来オペレータの熟練度に頼って故障部位を特定していたダム・堰の操作盤内部の故障をパソコンによる故障部位表示を行うことで自動的かつ高速に問題箇所を特定できるものである。

システム構成は、データ収集器、パソコン、解析ソフトウエアからなる。

故障発生時(接点不良、コイルの不良による不動作時)には、接点開閉情報からデータ収集器内部で論理的に分析を行い、機側操作盤内の動作シーケンスと 異なる動きをしているコンタクタ部位を発見し、故障部位の特定を行う。

ゲート制御機側操作盤診断装置として、故障診断機能(故障発生時)と保守・点検機能(通常運用時)を有する。

